

世界のアボカド市場

FreshPlaza 2023年9月8日

アボカドは相変わらず人気があるが、一部の市場の報告が示すように消費者が余計に金を払わなければならない国もある。オランダでは、エルニーニョ現象がペルー産の輸出に与えた影響により入荷量が減少し、冬場の輸入先への移行が一層難しくなっている。フランスではインフレとペルーでの減収により、高価格と消費の減退に直面している一方、イタリアではアボカドのサイズの好みはヨーロッパの傾向に従うとともに、価格が下落している。スペインでは、水不足と干ばつによりマラガ県で最大60%の深刻な減収に直面しており、輸入の増加を余儀なくされている。南アフリカはシーズン終了前の中国へのテスト輸出に期待しており、北米ではアボカドの供給が良好で価格が手ごろになっている。最後に、ブラジルは輸出が大幅に増え、新興のアボカド輸出国として浮上しており、世界の果実市場に存在感を示す構えである。

オランダ：エルニーニョ現象がペルー産の輸出量に影響

ペルーから一時期大量の輸入があった後、エルニーニョ現象の影響により現在は同国からの出荷が減少している。その結果、従来からの冬場の輸入先への移行が昨年よりも少し難しくなっている。しかし、輸入業者によると、消費者の購入が現在増加しているため、9月末からは堅調な価格の良好な市場が期待される。

ドイツ：夏の休暇にもかかわらず好調

南ドイツのある卸売業者は、アボカド専門の国際企業から、ペルー産、メキシコ産、イスラエル産等のハスアボカドを調達している。夏の休暇にもかかわらず売上は安定した水準にある。全般的に、アボカドの需要と販売は年間を通じて一定しており、価格の変動は限定的であった。この業者はまた、すぐに食べられる食品の人气が高まっている傾向を指摘する。そのため、未熟なアボカドの売上は減少した。

フランス：価格は高く、消費は停滞

現在、フランス市場にはケニア産と主にペルー産のアボカドがあり、徐々にシーズンの終わりに近づいている。市場では、新学期の時期であるほか、インフレの影響による果実や野菜の高価格のため、今年の9月は消費があまり活発ではない。すでに高かったアボカドの価格は、ペルーの不作によってさらに通常よりも高値になった。スペイン産のアボカドはベーコン種とフェルテ種が10月に入荷し、ハス種は11月に入荷する。

イタリア：アボカドのサイズでヨーロッパの傾向に従う

8月にはかなりの量のアボカドのヨーロッパへの流入が記録された。6月から9月末までにイタリアに入荷するアボカドの大部分は、引き続きペルー産のハス種である。サイズ(入数)は10/12/14/16に集中している。価格は、入荷量の増加と品質の問題により、昨年より約25%低い傾向にある。平均販売価格は7ユーロ(サイズ10/12)~8ユーロ(サイズ14/16/18)である。常に大玉(10/12)を好んできたイタリア市場だが、現在はヨーロッパの一般的な傾向に従っている。

ペルーからの入荷量は現在20%少なく、出荷シーズンは9月末の早期終了が見込まれている。エルニーニョ現象と去る2月の甚大な洪水被害により、出荷量は深刻な影響を受けた。イスラエル産の出荷は遅く、スペイン産は秋、特に晩秋は出荷量が少ない見込みで、モロッコ産とポルトガル産も同様と見込まれる。

果皮が緑色のアボカドについては、入荷する品種は南アフリカ産(低品質)とケニア産(比較的良い品質)のピンカートンである。南アフリカ産のライアン品種とペルー産のナバル品種も少量あるが、イタリアではほとんど需要が無い。イスラエル産のエッティンガー品種はまもなく最初の入荷が見込まれている。

スペイン：マラガ県で生産量が最大60%減少

アボカドの出荷シーズンは、スペイン南部で緑色の品種から始まろうとしている。水不足のため、スペインの主産地であるマラガ県(アンダルシア州)では、アボカド出荷量の約60%の劇的な減少が予想される。この大幅な減少は、今シーズン大きな損失を引き起こす。グラナダ県(同)沿岸部のアボカドも干ばつのために壊滅的な状況である。灌漑用の井戸は枯渇したものが多く、他の井戸も塩分濃度が過度に高くなっている。グラナダ県では、アボカドの出荷量が70%減少すると予想される。

アボカドの木の大部分は、黄色くなって枯れた葉をわずかに付けているだけである。果実は落果するか、肥大が止まっている。収穫量が少ないので、アボカドの品質は高いようである。しかし、出荷量が非常に少ないため、スペインの業者は今年は輸入を増やす必要がある。この状況と干ばつの結果として、多くの生産者は利益を上げておらず、アボカドの栽培をやめる可能性がある。

南アフリカ：中国への輸出のゴーサイン待ち

アボカドの出荷シーズンは終盤に差し掛かっており、中国向けテスト出荷の最終的なゴーサインが出た時に十分な量が残っている輸出業者はごくわずかと見られる。第35週(8月末)までに南アフリカの出荷量の92%が輸出された。今年、南アフリカは4kg箱で1,800万箱(7万2千トン)を輸出したと推定され、新植園地の成園化により昨年を大幅に上回った。

市場分析のAMT社によると、現在の国内市場の平均価格は16.50ランド(0.8ユーロ)/kgであり、ヨハネスブルグの青果物市場では、4kg箱の平均価格は19.40ランド(0.9ユーロ)である(原文のまま)。

業界は長年にわたり、南アフリカの出荷先が、ペルーの供給ピークによって圧迫される市場(欧州、英国及び中東にもある程度)に限られていると感じていた。中国市場が南アフリカ産アボカドに開放されるというニュースは、アボカド産業のほか、次に検討される核果類とブルーベリーの世界にとっても朗報であった。

ニュージーランド：アジア市場に焦点

ニュージーランドの今年のアボカドシーズンは、オーストラリア産の豊富な供給により、市場の価格が芳しくないと見込まれるため、見通しが厳しい。果実の品質はオーストラリアもニュージーランドも全体的に素晴らしいようで、販売業者はアジア市場に注意を向けている。これらの市場では最近、品質の低い南米産が収益の低下をもたらした大変頭の痛い問題となったため、高品質の果実に対する需要が大幅に増加している。

北米：アボカドの価格が軟化

地域別の供給量が変化しており、アボカドの供給は良好である。ある出荷業者は、「メキシコでは毎日収穫しており、それは良いことである。供給は日に日によくなり、季節的な供給曲線も改善しており、サイズの分布も良くなっている」という。(以下、北米の項で「」はこの業者の発言)

この業者は、カリフォルニア州の出荷シーズンはあと数週間を残すのみで、出荷量は先細りだと言う。「ペルー産は9月一杯出荷されるが、出荷量が減り始めている。」秋になると、10月から11月にはコロンビアからの出荷の季節となる。

需要は現在良好で、さまざまな祝日向けの需要の盛り上がりがある。たとえば、先週末はレイバーデー(労働者の日、9月4日)の需要が良好であった。価格に関しては、夏の間高かった。「しかし、大玉の価格は控えめである。今後サイズ分布がもっとよくなり、売りやすいサイズが増えると思う。価格と供給のバランスが取れ、品物の流れが安定するだろう。秋から冬にかけて供給が順調で、すべてが良好なようだ。」

ブラジル：アボカドの輸出力は未知

国際青果物協会(IFPA)のブラジル担当者は、8月末にブラジルで開催された会議の中で、ブラジルが世界の果実市場で獲得できると期待される役割を明らかにし、「ブラジルの目標の1つは、輸出先と輸出品目の両方において輸出を成長させることである。輸出先については、新しい市場を開かせる多くのオプションがある。実際、ブラジルが輸出力を有するがまだ開拓されていない品目の1つがアボカドである。現在、これに取り組んでいる」と述べた。2023年の輸出額はこれを裏付けている。

今年の上半期には、アボカドは輸出額で前年比153%、輸出量で175%増加し、レモンとライム、メロン、マンゴー、果実缶詰、ブドウに次いで6番目に輸出されたブラジル産果実となった。同担当者は、「これらの数字は重要であり、輸出が好調な時期は8月から12月なので、上半期には輸出が最も少ない時期が含まれることにも注意する必要がある」と述べ、今年下半期に再び大幅に増加することを予測した。